

## 「Business Analysis Workshop 参加報告書」

京都大学経済学部 4 回生 Y.K.

①今回の台湾大学、早稲田大学と京都大学のワークショップには、学部生のみならず大学院に進学されている方々も多く参加されていた。その中で、会計を中心に発表を行っていたのだが、統計を用いて研究を進めているチームが多い事に気づいた。

私の今までの研究は、財務諸表分析を中心としたもので、多くのサンプルを統計を用いて検証していくというスタイルをとっていなかった。そのため、他のチームの研究を聞いて、ビジネスの分析方法には様々な手法があることを再認識し、まだまだ勉強する必要があることに気付いた。また、普段は交流をとる機会があまり設けられていない、専門に研究を行っている大学院生の方々の研究を聞くことができ、大変勉強になった。

②台湾大学の学生に実際に現地を案内していただき、観光に行ったり、台湾料理を囲んで交流を深めることができた。共通の言語としては、やはり英語を用いた。台湾大学の学生たちの中には、非常に流暢に英語を使いこなしている人も多かったのであるが、私はというと会話の中で自分が言いたいと思うことの微妙なニュアンスが伝えられなかったり、もどかしい思いを何度も経験した。けれども、自分の知識の中でなんとか伝えようとする姿勢を貫くことができた点は良かったと感じる。英語でのやりとりを何度もしていくことにより、会話の技術は深められていくことを身に沁みて実感した。

③今回私が参加したプログラムの内容としては、ワークショップという正式な場と懇親会や観光といったある種ざっくばらんに楽しめる場を設けていただいた。そのため、お互いの研究発表を理解したり、それに対して意見を述べることによって知識を高めたりするだけではなく、台湾大学の方々との交流を楽しむことができ、より思い出深いワークショップとなった。

④私の進路として思い描いているのは、会社のプログラムを利用して、数カ月から二年にかけての海外駐在をしたり、日本を中心に海外に関連する仕事をこなしていくことである。

そのため、今回のワークショップが、私の進路への影響に関して大きな影響を与えたわけではないが、自分の夢を実現させたいという思いをより一層強くするきっかけとなった。研究発表を通して、自分の知識不足を痛感し、交流において英語力の必要性を実感した。自分の課題がある程度わかったという点においても、今回の台湾大学とのワークショップは有意義なものであったということがいえると思う。